

特集／市民公開シンポジウム・東京大会

△子育て▽と子どもの世界

開会挨拶

比較家族史学会会長

大竹 秀 男

(武庫川大学)

東京大会実行委員長

石川 利 男

(日本大学)

大竹 おはようございます。私、比較家族史学会の会長の大竹でございます。私どもの学会は、いろいろな専門分野を異にする研究者が集まって、家族の問題を研究し議論してきております。いろいろな専門といたしますと、どんな専門家が集まっているか、ちょっと思い出してみますと、歴史学、法学、経済学、社会学、人類学、教育学、宗教学、人口学、女性学、家政学、そんな風に専門が違う人が一緒にやっているわけです。珍しい学会であります。

司会

山 住 正 己

(東京都立大学)

田 中 真砂子

(お茶の水女子大学)

す。この学会が出来ましてから一〇年たちました。早いといいますが、あつという間でございましたけれども、この一〇年の間に我々学会としては何度もいろいろなテーマを取りあげてシンポジウムをやって参りましたけれども、この一〇周年の記念事業として今まで私どもがやったことのない市民の方と一緒に議論してみようと、こういう企画をいたしました。それが本日のこの東京でのシンポジウムでございます。ご承知の様に、といいますか、我々が感じていることで家族というのが変りつつある、そういう実感というのを、皆さんどなたもお持ちであろうと思います。いったい家族はどうなっているのか、特に最近の親子の問題、親と子の関係はどうなっているのか、激しく変動する家族の中で親子の関係はどうなっているのか。実は、どうなっているかではなく、どうするかということなんです。我々が今回のシンポジウムで取り上げました共通課題は、親子関係を問い直す、これからの日本の親子の関係がどうなっているかではなくてどう

してゆくか、そのことについて市民の方とご一緒に考えてみようではないか、勿論本日のシンポジウムで何らかの解決策が出てくるとか、そういう事ではございません。参加していただいた方々、我々研究している者、皆がこれから親子の問題について考えてゆく糸口を、このシンポジウムによって得ることが出来れば幸いだと思ひます。そういう意味で私どもは本日のシンポジウムで皆さんが遠慮なくご発言いただき、活発な議論をしていただくことを望んでいる訳であります。その意味でもぜひ、ご協力いただきたいと思ひます。以上をもって私の挨拶といたします。どうも失礼いたしました。

石川 おはようございます。日本大学の石川でございます。比較家族史学会が、今、大竹先生からご紹介がございましたとおり発足以来一〇年をけみますことを記念してこの公開シンポジウムを開催することにした訳ですが、会員の先生方、並びに多数の皆さんのご参加を得て開催することが出来ましたこと、誠に同慶のいたりと思っております。シンポジウムの基本テーマは親子関係を問ひ直すということでございますが、この学会が春六月に東京で、秋十一月に関西でという風に二回研究大会を続けまして今日に一〇年けみしたわけでございますが、それにちなんで東京では親子の問題について「八子育てと子どもの世界」、大阪の方では「高齢化社会と親子」ということで開催する運びになったわけでございます。昨年から準備を進めて参りましたわけでありましたが、その間厚生省の協賛を、また東京都の協賛を得ました。皆

さんお手元の大変貴重な資料は、厚生省人口問題研究所のお陰と、この児童会館をこの様な形で借りられ開催出来ましたことは東京都の後援のお陰と、ありがたく思っております。また、シンポジウムの要といえますと、コーディネーター山住先生、田中先生両先生の協力、適切なリポーターを得られ、又ユニセフの沢先生に特別報告をいただけるという様な事で公開シンポジウムを何とか成功に導く様に我々事務局としては、努力して参りました。その間、厚生省、東京都は勿論ではありますが、朝日新聞でも取り上げていただいて、私の研究室が電話の鳴り放しという様な問い合わせがありまして、この反響の大きいことを身にしみて何とか成功させたいという風に念願し、ここまでやって参りました。その間、事務局は当然としまして、松戸の私立常盤平幼稚園の方々、パンフレットから、ポスターを作るについていろいろご協力願ひいたしましたし、また日本大学の大学院の諸君には献身的にご協力願ひいたしました。お子様連れのお母様を当然予想しましたので保育料の学生諸君にお世話願うといった様な事で皆さんに支えられて、ここまでやってきた訳でございますが、これから一日基調報告それから後半に討論という事にあいなりますが、皆さんの積極的なご協力をいただいて成功に導きたいと思っております。どうもありがとうございました。よろしく願ひいたします。

山住 予定通り一〇時二〇分なのでこれから一五分〜二〇分間、まず田中さんの方から今回の市民公開シンポジウムの趣旨の説明をしていただきます。